



芙蓉
(大庭 プール前)

つながり

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~
~やさしく かしく たくましく~

第5号
R3. 7. 20
山口大学教育学部附属幼稚園

副園長 大森 洋子

カブトムシのいる生活

例年、9月から3月頃まではほとんど日の目を見ないカブトムシの幼虫ですが、4月半ばになると突然脚光を浴び始めます。うまく蛹室が作れるようにと、昆虫マットを入れ替えたり飼育ケース内の幼虫の数を調整したりを、子どもたちの目の前で行うからです。子どもたちは、その日から数日間思う存分幼虫に触れると、その後しばらくは触るのは我慢。カブトムシになる日を楽しみにしながら、蛹室やサナギの様子を見たり(透明容器だと見えることがあります)、見えない部分を想像したりして過ごします。



今年は春や夏の到来が早かったため、100匹以上いた幼虫も例年より早く成虫になり、子どもたちはたっぷりカブトムシに触れることができました。しかもオス率が高く(メスは潜っているからでもあります)、子どもたちは大喜びです。毎日、カブトムシの周りで頭を寄せ合っては、見たり触ったり話をしたり...そこでいろいろなドラマが生まれました。

5月頃、「いつカブトムシになるの?明日?」と毎日尋ねていた風組のA君は、成虫になって大喜び。カブトムシをよく見えています、触るのは怖いようで、友達が触る様子を見たり、カブトムシをじっくり観察したりしています。友達が触る様子を見て自分も触った気になるのでしょうか。そして、足がギザギザしてるよとか、ひっくり返ったとか背中にとったとかいろいろと言っています。いつの間にか同じようにカブトムシ好きの友達に親しみを感じるようになり、「一緒に弁当を食べよう」と誘うようになりました。



B君は、止まり木を調達してきて登らせたり、いっぱい登らせて運んだりしています。その姿が魅力的で友達が寄ってきます。同じようにやってみる子ども、「その木はどこにあるの?」と尋ねる子ども、木に止まらせたカブトムシと一緒に見せてまわる子どもいろいろですが、次第に「ここで戦わせよう」「カブトムシの家を作ろう」と、一緒に過ごすようになりました。

星組のC君は、本当によくお世話をしてくれます。生き物は世話をしないと死んでしまうと、よく分かっているのですね。「土を湿らせないと」「ゼリーに水をかけちゃダメ」などと他にも詳しい子どもたちもいて、声をかけ合いながらお世話をしています。

D君は、隣にいたE君のTシャツに面白がってカブトムシをくっつけました。いつもカブトムシの周りにいるから一緒に喜んでくれて盛り上がると思ったのでしょうか。ところが、E君は怖かったのかとも怒りました。D君は、自分が平気でもE君はそうではないこと、同じようにカブトムシが好きでもその中身は違うことを学びました。

友達が平気でカブトムシを持っているのを見て自分ももてるようになったり、「色が違う」「小さい毛がいっぱい生えてる」などと気づいたことを話したり、図鑑で飼い方を調べたりついでに他の種類も見てみたり、ギザギザの足が布につくとなかなかとれないことを経験したり、飛んでいってしまって数人で慌てて追いかけたり...と、他にもいろいろな姿が見られました。

小学校以上の教育では、「カブトムシの飼育」を通して、成長過程を学んだり(理科)、雌雄の数を比べたり(算数)、「カブトムシ」とケースに表示したり(国語)を体系的に学びますが、幼稚園では、「カブトムシのいる生活」を通して、自然にそれらに触れたり気付いたりするとともに、ものや人へのかかわり方やかわる喜びを学びます。子どもたちがどんな出来事に出会うか、友達とどんなやり取りをするか、そこでどんなことを感じたり学んだりするかを大切にしています。幼児教育が「環境による教育」で、「遊びを通して総合的に指導する」ものだといわれている所以です。

1学期の間、子どもたちは、こんなふうに、いろいろな遊びを通して、自ら動き、様々な出来事に出会い、感じ、楽しみ、学んできました。その経験は、みんな子どもたちのいろいろな「力」になっています。



アサガオが咲きました。初めて花を付けた朝には、先生たちの「咲いたね」という声が飛び交いました。二人の年長男児は、「あ、咲いてる」と自分たちの花壇に座り込んでうれしそうに見ていました。開花に気づいたり、思わずうれしい言葉を発したり、笑顔がほころんだりする姿が素敵だなあと思うとともに、花のもつ力もすごいなと思いました。

花を使って色水を作って楽しむ姿もありました。5月頃より作り方が上手になっていて、とても綺麗な色が出ていました。



花組：ボディーペインティング ペットボトルシャワー キュウリ、採れました 食べました トマトも採れました



風組：大きいシャボン玉 見学者にお店を開いてくれました 体操もシャワーも上手になりました 飛行機飛びまーす



星組：スライムづくり 農場のエダマメを一生懸命もぎました 「あそこにセミが・・・」 ペンペンのアイスやさん

計画訪問がありました

7/12、鷹岡教育学部長先生を始め、学部の執行部の先生方の幼稚園訪問を受け、園の現状や課題を聞いていただいたり、施設環境や子どもたちの様子を見ていただいたりしました。幼小中一環教育、ICT教育、心の教育などの現代的諸課題が話題に上りましたが、何よりもまず、「子どもたちが笑顔で、とても楽しそうに生き生きと活動していた」と、子どもたちの姿を評価していただいて、とてもうれしく思いました。

附属学校園は、山口大学の施設であり、教育学部の附属ですから、大学や学部としっかり連携していくことがますます重要になってきます。たとえば、年長児が農学部農場でいろいろな体験をしているように、また、幼児教育の学生が学びに来たりいろいろ手伝ったりしてくれるように、小規模な幼稚園だけではできないことも、大学や学部の助けを借りることによってできるようになります。これからも一層協力し合って、子どもたちの豊かな園生活を支えて行きたいと思えます。

早いもので、今日で1学期が終わります。保護者の皆様には、多方面から支えていただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。子どもたちのためにと、私たちがいくら環境を用意して頑張ったとしても、子どもたちが園に来てくれないことには保育は成立しません。保護者の皆様が毎日子どもたちをきちんと送迎して下さるからこそその幼稚園です。そして、親子遠足や保育参観、学期末連絡会などの行事も、参加のご協力をいただけるからこそ企画できることです。ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

明日から夏休みです。遠出は難しいと思いますが、虫取りやクッキング、水遊びなど、身近なところにもたくさんの楽しみがあると思います。それぞれのご家庭で工夫して、どうぞよいお休みにしてください。

新型コロナウイルス感染症については、従来株から変異株(アルファ株)にほぼ置き換わったと推定されており、これからは、アルファ株よりも感染しやすいと言われているデルタ株の感染者数増加やアルファ株からの置き換わりが懸念されています。このような状況を踏まえ、夏休み中も警戒を緩めることなく、しっかり感染防止に努めましょう。

幼児の感染経路(令和2年6月1日～令和3年5月31日までに文部科学省に報告があったもの)をみると、72%が家庭内感染です。手洗い・咳エチケット・3密の回避など基本的な感染防止対策を引き続き徹底しましょう。また、県をまたぐ移動は、移動先やその周辺地域の感染状況を確認の上、慎重に検討しましょう。

元気で夏を乗り切って、2学期に笑顔で会えることを楽しみにしています。